

**Profile** キム・ソヨン / 김소연  
 1980年11月2日生まれ。1994年に『恐竜先生』でデビューし、徹底した悪女に扮した『イヴのすべて』(00)で強烈な印象を残す。中華圏でも高い人気を誇り、一時は国内での芸能活動を休止していたが、2008年に『食客』で復帰。『IRIS』(09)では北朝鮮工作員のソンファ役を演じ、新境地を拓いた。その他の出演作に『その陽射が私に…』(01)『母よ姉よ』(01)『三銃士』(02) などがある。

## 頭から足の先まで イメージチェンジ してみたかったんです

— 演じているマ・ヘリのキャラクターについて紹介をお願いします。

ヘリは、純粹で子どもっぽくてかわいい面もあるのですが、突拍子もないことをする非常識で短所の多いヒロインなんです。もしかしたら、みなさんから共感を得られないかもしれませんが、そこは大目に見て、笑っていただければと思います。

— 前作『IRIS』の工作人員役とはまったく違う姿ですね。

私はもともと、これまで演じたことのないキャラクターに挑戦してみたいという欲が強いんです。今回もちょうど、『IRIS』のソンファとはぜんぜん違

うキャラクターを探していて、できることなら頭から足の先まで変えてみたい、と思っていたところに声がかかったので、とてもうれしかったです。

— 一気にイメージチェンジするというのは、大変なことではないのですか？

見た目から徹底的に変えなくてはいけないというのはありましたが、もともとヘリは自分と似ているところも多くて、負担なく役に入ることができました。ソンファを演じていたときでさえ、カメラが回っていないときは、「アニョハセヨ〜ん」なんて愛嬌ふりまいていたんですから(笑)。ぜんぜん平気です！  
 — どんなどころに気を遣いましたか？

ブランドを身につけたりウエーブヘアにしたりと、身なりを派手にすることはもちろんですが、もつとも気を遣ったのは目つきですね。ソンファはすごくきつい目つきでしたよね。偶然テレビで『IRIS』の再放送を見かけたのですが、「あら、私だったらどうやってあんな怖い目をしたのかしら……」と思ってしまいました(笑)。だから、ヘ

リにふさわしい柔らかい目つきになるよう努力しました。

— 演出家から、役作りについての指示はありましたか？

それが、演出家さんも作家さんも口をそろえて、「いまのソンさんの姿そのままでもいいから」とおっしゃるんです。おかげでとても楽に演じることができました。コメディ演技もところどころに出てきますが、心をオープンにして思いっきりやらせてもらいました。「カット」の声がかかった瞬間、まわりのスタッフたちの笑い声がどっと湧きおこるのですが、それが活力になりました。こんなに面白い台本を、どうやったらうまく表現できるのだろう……そればかり考える日々でしたね。

## Close Up Interview

# キム・ソヨン

## 『検事プリンセス』 マ・ヘリ役

ブランドに身を包み、スポーツカーで出勤。  
 仕事ではトラブルばかり……。  
 『検事プリンセス』で一風変わったヒロインを演じているのが、  
 『イヴのすべて』や『IRIS』で知られるキム・ソヨン。  
 作品ごとにまったく新しい顔を見せてくれる彼女に、  
 今作の意気込みを聞いた。

文 / 編集部 (SBS公式サイトより) ©SBS Contents Hub.

